



福島原発事故後に全町村避難を実施した 被災自治体の復興計画比較分析



福島原発事故後に全町村避難を実施した福島県双葉郡の被災8町村の復興計画に記載された復興の理念・目標と、復興の目標を達成するための枠組みと手段を比較分析した。結果、町村外復興拠点の位置づけ、復興計画の策定過程で適用された住民参加の状況・水準について、被災自治体間で差異があることが確認された。

調査・分析方法

調査方法

■ 被災8自治体のウェブサイトから取得した復興計画の記載内容を精読、情報を整理

■ 関連する行政資料、先行研究を参照して情報を補足

分析方法

① 復興の理念・目標（復興スローガン）

➢ 特に広域避難を経験した被災市町村に特有の理念・目標として町村外復興拠点（町村外コミュニティ）の位置づけを確認

② 計画策定過程の住民参加（策定組織の構成と住民参加手法）

➢ 策定組織は復興計画策定に関与する様々な主体（行政、地産事業者、各種民間団体、地縁的組織等）の結節点となる

➢ 住民参加手法は間接的なもの、直接的なものに大別（金井 2010）

被災8自治体における復興計画策定状況（2022年6月時点）

	地域類型 (山川 2021)	復興構想・復興ビジョン	復興計画（第一次）	復興計画（第二次）	第二次以降の復興計画 その他復興に関連する計画
大熊町	3	大熊町復興構想 (2011年10月)	第一次大熊町復興計画 (2012年9月)	大熊町第二次復興計画 (2015年3月)	大熊町復興まちづくりビジョン（2014年3月） 大熊町第二次復興計画改訂版（2019年3月）
双葉町	3	—	双葉町復興まちづくり計画（第一次） (2013年6月)	双葉町復興まちづくり計画（第二次） (2016年12月)	双葉町復興まちづくり長期ビジョン（2015年3月） 双葉町復興まちづくり計画（第三次）（2022年6月）
富岡町	3	富岡町災害復興ビジョン (2012年1月)	富岡町災害復興計画（第一次） (2012年9月)	富岡町災害復興計画（第二次） (2015年6月)	富岡町復興まちづくり計画（2014年3月） 富岡町再生・発展の先駆けアクションプラン ～復興拠点整備計画～（2015年9月） 富岡町災害復興計画（第二次）後期（2020年3月）
浪江町	3	浪江町復興ビジョン (2012年4月)	浪江町復興計画（第一次） (2012年10月)	浪江町復興計画（第二次） (2017年3月)	浪江町復興まちづくり計画（2014年3月） 浪江町復興計画（第三次）（2021年3月）
楡葉町	3	楡葉町復興ビジョン (2012年1月)	楡葉町復興計画（第一次） (2012年4月)	楡葉町復興計画（第二次） (2013年5月)	楡葉町復興計画（2014年3月） 楡葉町復興計画（第二次）第三版（2016年1月） 楡葉町復興計画（第二次）第三版（2019年9月）
飯舘村	2	までいな希望プラン (2011年6月)	いいたてまでいな復興計画（第1版） (2011年12月)	いいたてまでいな復興計画（第2版） (2012年8月)	いいたてまでいな復興計画（第3版）（2013年6月） いいたてまでいな復興計画（第4版）（2014年6月） いいたてまでいな復興計画（第5版）（2015年6月）
葛尾村	2	葛尾村復興ビジョン (2012年2月)	葛尾村復興計画（第一次） (2012年12月)	—	復興まちづくり事業化計画「かつらお再生戦略プラン」 (2014年6月) ※2019年1月一部修正
川内村	1	川内村災害復興ビジョン (2011年9月)	川内村復興計画 (2013年3月)	—	川内村における緊急時避難準備区域解除に係る復旧計画 (2011年9月)

第一次復興計画における復興の理念・目標（復興スローガン）

	大熊町	双葉町	富岡町	浪江町
地域類型（山川 2021）	3	3	3	3
復興スローガン (基本理念)	あなた自身と、まちの再建・復興を目指して	“町民一人ひとりの復興”と“町の復興”をめざして	なし	みんなでもに乗り越えよう 私たちの暮らしの再生に向けて～未来につなぐ復興への想い～
復興スローガン (基本目標)	短期的取り組み 1. 再建の住となる財物補償を早期に実現する 2. 安心して暮らせるための住居環境を確保する 3. 安全・安心して学べる教育環境を確保する 4. ふるさと大地を取り戻すための効率的で無駄のない除染を実施する 5. 町民ニーズに根ざした計画を策定する 中期に向けた取り組み 1. 会津若松市の拠点を維持強化を図る 2. 大川原地区に除染・治安維持の拠点を設ける 3. いわき市周辺に拠点（町指定地）を設ける 4. 除染をし、得来、自然の大地を取り戻す	1. 生活再建の決意：暮らしの復興をめざして みんなで頑張ろう 双葉町 2. 町民のまじり・結びつき：つなげよう つなごう 双葉町 3. 町の再興への決意：子どもたちの未来のためにとりもどそう 美しいふるさと双葉町	1. 今の生活の不安を軽減し、安心して帰りたい環境を整える 2. 震災・原発事故を契機に従前のまちづくり課題を解決し、安全・安心で新たな魅力を備えた「ふるさと富岡」をかたちづくる 3. 当面帰還できない町民の心身の健康を守り生活を再建する	1. すべての町民の暮らしを再建する～どこに住んでいても浪江町～ 2. ふるさとを再生する～受け継いだ責任、引き継ぐ責任～ 3. 被災経験を次代や日本に生かす～脱原発、災害対策～
町村外復興拠点の位置づけ	あり	あり	あり	あり
地域類型（山川 2021）	3	2	2	1
復興スローガン (基本理念)	地震・津波災害と原子力災害を克服し、より健康で暮らしやすい、新しい楡葉の礎をつくる～住む人すべてが安心して健康に暮らす、先進モデルの町を目指して～	みんなで創ろう 新たな「いいたて」を～「までいの力」を結集して～	村民一人ひとりの生活再建と、ふるさと「かつらお」の繁栄をめざして	新生かわうち創造の礎を築く
復興スローガン (基本目標)	1 安全・安心な生活の再建：安全な暮らしを取り戻し、みんなの安心できる生活を再建する 2 町民の主体的参画と自立：復興に向け、ひとりひとりが持てる力を結集する 3 次世代への継承：これまでとは違う新しい楡葉をつくり、子どもたちの未来につなげる 4 広い視野に立つ復興：楡葉単独ではなく、近隣地域との広域的な連携と協力で、復興に取り組む	1. 生命（いのち）をまもる 2. 子どもたちの未来をつくる 3. 人と人がつながる 4. 原子力災害をのりこえる 5. までいブランドを再生する	1. 村民の将来にわたっての安全・安心を最優先する 2. 避難している方の支援を続け、村民全員の帰還をめざす 3. 村のさらなる発展をめざし、村民一体となった復興をめざす	なし
町村外復興拠点の位置づけ	なし	なし	なし	あり

基本理念

➢ 富岡町を除く7自治体が掲載。町村民の生活再建と地域復興の同時達成（大熊町・双葉町・葛尾村）など、複数の自治体が類似した理念を掲載

基本目標

➢ 川内村を除く7自治体が掲載。子どもたち・次世代への地域継承（双葉町・浪江町・飯舘村・楡葉町）など、複数の自治体が類似した目標を掲載。地域間の広域的連携を掲げた楡葉町など、独自の目標を掲げた市町村も

町村外復興拠点の位置づけ

➢ 5自治体（大熊町・双葉町・富岡町・浪江町・川内村）が位置づけ。浪江町は「町外コミュニティ」という概念を提示。既存市街地に隣接した地区に復興公営住宅、店舗・事業所、役場出張所を整備するイメージを提示

第一次復興計画の策定過程における住民参加

	大熊町	双葉町	富岡町	浪江町
地域類型（山川 2021）	3	3	3	3
策定委員数	20	45	23	103
策定委員の属性 ※ ○ は人数	町職員（12）町民代表（8） ※町民代表は、町民アンケートで募った希望者から、性別・年代などのバランスや、活動履歴などを総合的に判断して町行政が選出	有識者（5）町職員（8）町議会（2） 行政区（2）避難先自治組織（2） 商工団体（3）民生団体（2） 農業関係者（3） 教育委員会・学校（4）PTA（3） 医療福祉機関（3）若者代表（5） その他（3）	有識者（1）町職員（13） 国・県（4）その他（5）	有識者（6）町職員（18） 避難先自治組織（1） 行政区（15）産業団体（15） 民生団体（4）商工業者（8）PTA（2）NPO（3） 教育委員会・学校（2） 公募（21）国・県（2）その他（6）
策定委員の町村職員比率	60.0%	17.8%	56.5%	17.5%
住民参加手法	・行政区長会、町の各種団体の長への計画素案の説明 ・町民アンケート	・「7000人の復興会議」 ①ワークショップ会議、 ②インターネット会議、 ③みんなでもちづくりノート ・住民意向調査	・町民アンケート	・パブリックコメント ・町民アンケート
地域類型（山川 2021）	3	2	2	1
策定委員数	41	30	26	非公開
策定委員の属性 ※ ○ は人数	有識者（6）行政区（4） 産業団体（4）民間企業（4） 教育委員会・学校（2）PTA（4）医療福祉機関（1）国・県（2） 町民代表（13）その他（1）	有識者（5）村職員（9）村議会（4） 行政区（1）避難先自治組織（3） 産業団体（2）復興まちづくり団体（1） PTA（1）避難住民代表（2） 国・県（2）	公募（4）その他（22） ※その他の内訳・詳細は不明	非公開
策定委員の町村職員比率	0.0%	30.0%	不明	不明
住民参加手法	・パブリックコメント ・町民アンケート	・住民懇談会 ・村民アンケート	・パブリックコメント ・住民意向調査 ・住民懇談会	非公開

策定組織の構成

➢ 町村職員が最大勢力となる自治体（大熊町・富岡町・飯舘村）と、町村職員比率が20%以下と低い自治体（双葉町・浪江町・楡葉町）に大別

➢ 民間諸団体・公募の属性は自治体ごとに多様。避難先自治組織・避難住民代表を策定委員とした自治体もみられた（双葉町・浪江町・飯舘村）

住民参加手法

➢ ワークショップや住民懇談会などの、直接的・双方向的な参加機会を設けた自治体（双葉町・飯舘村・葛尾村）と、住民代表との調整、パブリックコメント・住民アンケート等の間接的・一方的な参加機会のみを設けた自治体（大熊町・富岡町・浪江町・楡葉町）に大別

➢ 双葉町は、2012年8月～2013年1月にかけて「7000人の復興会議」という直接的な住民参加の手法を採用

まとめ

- 復興スローガン（基本理念・基本目標）は複数の自治体で類似。ただし、町村外復興拠点の位置づけは、被災自治体間で差異が確認された
- 復興計画の策定過程で適用された住民参加の状況・水準は、被災自治体間で差異が確認された
- 福島原発事故の被災自治体が策定した復興計画には、共通性と差異の双方がみられる